

「おさしみ」とおとうさん

青森市立浪岡南小学校 二年 山内 麻里有

「おさしみ。」

わたしの家では、「おやすみ」のかわりに「おさしみ」と言う。わたしやおねえちゃんがねる時、

「おやすみ。」

と言うと、おとうさんは、

「おさしみ。」

と言う。

「おとうさん、それって、おさしみじゃなくて、おやすみでしょ。」

と言ってもしらんぷりをされる。

きよ年、おとうさんはよこはまにたんしんふにんしてしまった。その日から、おとうさんの「おさしみ」が聞けなくなった。時どき電話で話す時、「おやすみ」とわたしが言うのと、「おやすみ」とおとうさんが言うようになった。少しさみしくなった。

たまに帰ってくる時には、「おやすみ」ではなく、「おさしみ」にまたかわる。

夏休みにおとうさんが帰って来た時、花火をした。花火をやる時は、おとうさんがロウソクにライターで火をつける。おとうさんは、花火に火をつけて、子どもみたいになりよう手で花火をふりまわす。そして、いつもあぶないとお母さんにおこられる。ねる時に、わたしとおねえちゃんが「おやすみ」と言ったら、「おさしみ」とおとうさんが言った。そのことばを、わたしたちはひさしぶりに聞いた。なつかしかった。うれしかった。あんしんした。今までわすれていた「おさしみ」。それを聞いて、さびしかった思いがきえた。

でも、おとうさんは、またよこはまへ帰った。とてもかなしかった。はやく青森にもどって来てくれたらいいのになあ。

よその家では、「おさしみ」は「魚のおさしみ」だが、わたしの家では、「おやすみ」のいみもある。それにわたしたちは、おさしみが大きなかぞくでもある。ただ一人、おねえちゃんをのぞいては。わたしたちが、おさしみをすきなりゆうは、おとうさんのつくったおすしがとてもおいしいからだ。

だれでも知っている「おさしみ」。わたしたちのひみつの合いことばの「おさしみ」。どっちのいみも、わたしにとって大すぎで、大切なもの。これからも、ずっとだいじにしていきたい。